



JIC インフォメーション

第 192 号 2017 年 7 月 10 日

年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町 2-13 ワキタ天満橋ビル 812 号 TEL: 06-6944-2341

はりねずみのジューニア



ロシア・旧ソ連 国際交流誌



ロシアには観光資源がいっぱい!

(上)バイカルアザラシ、世界最高のバレエ舞台芸術、(下)ウラジオストクの新名所・フォーキナ通り

【講演録】 プーチン大統領来日、そしてこれから
～経済協力でまず道をつける～
・・・藤本和貴夫(大阪日口協会理事長)・・・2P

【講演録】 私の見たロシア、これからの日露関係
～「二島先行返還」にカジを切った安倍政権
・・・酒井和人(中日新聞記者・元モスクワ支局長)・・・8P

【留学記】 ベラルーシ・ミンスク言語大学
・・・藤田勝利(上智大学ロシア語科)・・・10P

【旅行記】 ロシア軍事博物館 見て歩く記
・・・武藤竜也・・・12P

【急募!】 キルギスの学校が日本語教師募集中・・・16P

【近日出版!】 『ラフマニノフの思い出』・・・16P

JICでは、Jクラブ(JIC友の会)会員を募集しています。
年4回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

【大阪府議会日ロ友好議連・講演会】

プーチン大統領来日、そしてこれから

～経済協力でまず道をつける～



藤本 和貴夫 (大阪日ロ協会理事長、大阪経済法科大学学長)

2017 年 3 月 3 日、大阪府議会日ロ友好親善議員連盟の総会で、大阪日ロ協会の藤本和貴夫理事長(大阪経済法科大学学長)の講演会が行われました。昨年 12 月のプーチン大統領の訪日を受けて、日ロ交渉が具体的に進み始めています。講演会では、交渉の現況、これまでの経過と今後の見通しが分かりやすく話されました。(編集部)

領土問題は動かさず、経済協力で動かす

昨年 12 月のプーチン大統領訪日・日ロ首脳会談では、「今度こそ北方領土問題が動くのではないか」という期待が大きかったと思います。しかし、実際はどうだったか。プーチン訪日の評価は 2 つに分かれています。領土問題についてはほとんど動かなかったというのが現実です。しかしそれだけで首脳会談の結果を見るわけにはいきません。領土問題を前に進めるためにも、経済関係で何とか日ロの関係を動かそうということで、経済協力についていろいろな動きが新たに出てきた。領土問題はしばらく置いて、背後で交渉しながら、まずは経済でお互いにウインウインの関係を結ぼうというのが今回の動きだと思います。

プーチン大統領は 12 月 15 日・16 日に来日し、初日は山口県、二日目は東京で安倍首相と首脳会談を行いました。第一の焦点は、2 人だけの 95 分間の会談を含む初日の政府間交渉の中身ですが、もう一つの焦点は二日目に行われた「日露ビジネス対話」です。これは、日本とロシアの大企業や経済団体、大学関係者などを集めて、様々な分野で日ロ交流を進めるために開かれた非常に大規模な対話会議です。

共同経済活動に関するプレス向け声明

首脳会談の結果、「共同経済活動に関するプレス向け声明」が発表されました。

日本外務省のホームページに載っているプレス向け声明は、次のように書かれています。

1. (両首脳は) 択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島におけ

る日本とロシアによる共同経済活動に関する協議を開始することが、平和条約の締結に向けた重要な一歩になり得るということに関して、相互理解に達した。かかる協力は、両国間の関係の全般的な発展、信頼と協力の雰囲気醸成、関係を質的に新たな水準に引き上げることに資するものである。

これはプレス向け声明です。より拘束力の高い共同宣言や共同声明は今回出されませんでした。日ロ双方がプレス向けに声明を出すという形になったのは、両者が重要な問題で合意に至らなかったということです。それを証明するのは、ロシア側が発表したプレス向け声明です。

以下は、ロシア大統領府のホームページに載っている文章です。タイトルは「南クリール諸島における共同経済活動に関する日露会談の総括に関するプレス向け声明」となっています。日本側は「共同経済活動に関するプレス向け声明」ですが、ロシア側はこういう長い文章になっています。

本文の違いは一番初めの部分です。日本側は、「択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島」と四つの島の名前を挙げていますが、ロシア語では「南クリール諸島」とだけ書かれています。そのあとは同じ文章ですが、要するにこの四つの島の名前を挙げるか挙げないかで合意に至らなかったということで、日本側とロシア側がそれぞれ別の文章を出したということになります。この四島の名前を明記するかしないかというのは、この間のいろいろな交渉の中でずっと出ている一つの大きな問題です。

漁業、養殖、観光、医療、環境などを対象に共同経済活動

プレス向け声明の第 2 項は次の通りです(日本外務省ホームページより)。

2. (両首脳は)、関係省庁に漁業、海面養殖、観光、医療、環境その他の分野を含み得る、上記 1 に言及された共同経済活動の条件、形態及び分野の調整の諸問題について協議を開始するよう指示する。

会議でいろんな議論がされても、それが実際に関係官庁に指示されて、官僚組織が動いていかないと困るので、そ

れを確実に指示するという事です。これはロシア語も日本語も同じです。

第 3 項以下は次のように記されています。

3. 日露双方は、その協議において、経済的に意義のあるプロジェクトの形成に努める。調整された経済活動の分野に応じ、そのための国際約束の締結を含むその実施のための然るべき法的基盤の諸問題が検討される。

4. 日露双方は、この声明及びこの声明に基づき達成される共同経済活動の調整に関するいかなる合意も、また共同経済活動の実施も、平和条約問題に関する日本国及びロシア連邦の立場を害するものではないことに立脚する。

5. 両首脳は、上記の諸島における共同経済活動に関する交渉を進めることに合意し、また、平和条約問題を解決する自らの真摯な決意を表明した。

ここで共同経済活動を具体的に進めていくと、この活動を行う領域の主権はどちらにあるのか、事件や事故の際の警察権はどちらが持つのかといった「法的基盤の諸問題」が生じます。これは両方でなかなか一致しない問題ですが、それぞれの立場を害さない方法を話し合おうということです。また、この共同経済活動に関する交渉と平和条約の問題の解決は一体のものであるということが述べられています。

以上が今回のプーチン訪日の中心的な文章ということになります。

それから、プレス向け声明はもう一つあって、旧島民の四島訪問の簡素化が合意されました。これはテレビでも随分報道されましたが、旧島民で墓参を希望する人たちが高齢であるため、旧島民の四島訪問手続きを簡素化する、飛行機でも行けるようにするといった方策が検討されているようです。

政府間、民間で合計 80 件の合意文書に署名

以上がプレス向け声明の内容ですが、もう一つ、プーチン大統領の訪日に合わせて非常にたくさんの協力文書がサインされました。

まずは政府間協定が 12 件あります。これは「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」の 2018 年開催や、運輸、エネルギー、金融分野などでの政府間協定と覚書です。

大きいのは民間企業間の経済協力協定で、全部で 68 件あります。非常にたくさんの日本の大企業がロシアの大企業と協定を結んだ。たとえば、三井物産と R-Pham 社、これは医薬品です。三菱商事とロシア最大の民間企業であるガスプロムは石油とガスの開発。それから JETRO(日本貿易振興機構)とこれに対応するロシア側のロスコンGRESSとの協定。これらはまだサインされただけなので全部実現するとは限りませんが、総額 3000 億円にのぼる協定が締結されました。これが今回の成果です。



合意事項を着実に実施していく体制を組む

首脳会談後の動きでこれまでとの違いは、日本側が合意事項を実際に実行していく決意を表に出していることです。何が起きているか。この 1 月に外務省の人事が大きく変わりました。まず、秋葉剛男外務審議官が日ロ関係担当の政府代表になりました。その前の政府代表はいわゆるロシアンスクールの原田親仁・元ロシア大使でしたが、日本側の交渉代表が秋葉氏に代わった。さらに、欧州局長も代わりました。新局長の正木靖氏はこれまで国際法や条約を担当していた人です。ロシア課長には毛利忠敦氏が就任しました。この人はロシアンスクールですが、外務省内で中露国境線最終決着の交渉過程を研究した人です。これは日本側の本気度が伝わる人事です。日本側は本気で条約締結や領土交渉の実務を担当する専門家を対ロ外交の担当者に据えたということです。

そして、2 月 1 日にはさっそく秋葉外務審議官がロシア側のモルグーロフ外務次官と会談を行いました。2 月 17 日にはドイツのボンで日ロ外相会談が開かれています。これらはプーチン大統領の訪日で決まったことを今後実際にやっ行ってこうということの現れだと思えます。これまでも、首脳会談の度にいろんなことが決まりましたが、合意事項をそのあと確実に実施をするという体制では必ずしもなかった。今回はそれをちゃんと動かしていこうという体制を組んでいるわけです。

すでに決まっている日程は、3 月 18 日に東京で秋葉・モルグーロフ会談が再度行われます。さらにしばらく中断していた日ロの外務大臣・防衛大臣の会議、いわゆる「2+2」閣僚会議を 3 月 20 日に東京で開く。4 月下旬には安倍首相の訪ロが予定されています。また、これは首脳会談での安倍さんとプーチンさんの約束ですが、9 月にウラジオストクで開かれる東方経済フォーラムに安倍首相も参加して、そこで今回の首脳会談で合意した課題がどこまで進んだかチェックしようということになっています。

出発点は 1956 年の日ソ共同宣言

このように安倍政権の積極的な姿勢が目立っていますが、

これは今までの日ソ・日ロ交渉とどこが違うのか。少し歴史を振り返ってみたいと思います。

日ロの領土問題、国境線画定問題の出発点は 1956 年です。サンフランシスコ講和条約(1951 年 9 月)で日本は全面講和しなかったために、ソ連、中国、韓国、北朝鮮との講和問題が残されました。スターリンの死去(1953 年 3 月)でソ連に変化の兆しが現われ、日ソ国交回復交渉が始まりました(1955 年 6 月)。そうして、当時の鳩山一郎首相が病身を押してモスクワを訪問し、日ソ共同宣言を締結する。これが 1956 年 10 月です。

当時、日本は国連に加盟していませんでした。国連加盟のためにはソ連が拒否権を行使しないことが必要で、講和条約を結んで戦争状態を終結させないと日本は国連に加盟できなかった。また、戦後 10 年たっても帰国できずにいるシベリア抑留者がまだ千名以上残されており、日本国内ではとにかく抑留者を返してもらうために交渉を急ぐ声が高まっていました。北方海域での漁業問題もありました。いろいろな課題があって、その解決のために国交回復と平和条約締結の交渉が行われたわけです。

当然その中には領土問題もありました。交渉の過程で、日本側は四島のうち歯舞・色丹の二島返還で平和条約を締結する方向で一度は手を打とうとしたのですが、今度はアメリカ側から「それなら沖縄を返さない」と言われて平和条約締結を断念し、結局、日ソ共同宣言で国交回復をはかったわけです。

この日ソ共同宣言の第 9 項は、「日本国及びソヴィエト社会主義共和国連邦は、両国間に正常な外交関係が回復された後、平和条約の締結に関する交渉を継続することに同意する。ソヴィエト社会主義共和国連邦は、日本国の要望にこたえかつ日本国の利益を考慮して、歯舞群島及び色丹島を日本国に引き渡すことに同意する。ただし、これらの諸島は、日本国とソヴィエト社会主義共和国連邦との間の平和条約が締結された後に現実に引き渡されるものとする。」となっています。

ロシアにとっての安全保障上の問題

平和条約締結後に二島を「返す」のではなしに「引き渡す」と共同宣言には書かれたわけですが、1960 年に日米新安保条約が結ばれると、ソ連は「日本から全外国軍が撤退しない限り二島は引き渡さない」という声明を出して、それ以後はずっと「領土問題は存在しない」という態度をとるようになりました。

この安全保障の問題は、米ソ冷戦下のソ連にとって重要でした。地図を見れば分かるように、千島列島の西側、オホーツク海にいるソ連海軍の潜水艦は、太平洋へ出るのに北方四島周辺の国後水道か択捉海峡を通っているわけです。この二つの島が日本領になった時、ここにアメリカの軍事基

地が置かれたらソ連(ロシア)はきわめて不利になる。そういうことで、1960 年の新安保条約で「引き渡し」の問題が宙に浮いてしまったわけです。

この問題は、米ソ冷戦の終結(1989 年)とソ連崩壊(1991 年)後はあまり問題にされてこなかったのですが、今回の首脳会談で再び表に出てきました。ロシアの原子力潜水艦基地は今どこにあるかという、カムチャツカ半島の東側のペトロパブロフスク・カムチャツキーです。ですからクリール諸島を通らなくても太平洋に出られるのですが、かつてこの基地はウラジオストクにあったのです。ウラジオストクを対外開放する時に原潜基地はカムチャツカに移されました。ここは現在、ロシア最大の原子力潜水艦基地です。そして、ロシアの原潜は水深の深い四島周辺海域を通ってオホーツク海と太平洋を出入りしています。

かつて一度提案された「四島での共同経済活動」

その後の日ソ(日ロ)交渉の動きを見ると、1973 年に田中角栄首相の訪ソがあったものの、ソ連時代はほとんど進展がありませんでした。動き出したのはゴルバチョフ大統領訪日からで、1991 年 4 月にゴルバチョフ大統領が来日して日ソ共同声明に調印しました。海部首相との会談で、北方四島への「ビザなし渡航」(元島民のロシアへの入国ビザ無しでの四島訪問)が始まりました。

次に、1993 年 10 月にエリツィン大統領が来日して細川首相と会談し、東京宣言にサインしました。この宣言で、「北方四島の帰属問題」ということが初めて文書に記され、東京宣言には、択捉、国後、色丹、歯舞と四島の名前を列挙したうえで、その帰属問題を「歴史的・法的事実に立脚し、両国の間で合意の上作成された諸文書及び法と正義の原則を基礎として解決する」と明記しています。



さらにその後、橋本龍太郎首相とエリツィン大統領が交渉を重ねて、二人の信頼関係が深まります。写真は橋本首相がクラスノヤルスクを訪問した時のものです。1997 年 11

月のクラスノヤルスク会談では「2000 年までに平和条約調印をめざす」ことが合意されました。

クラスノヤルスク会談を受けて、98 年 4 月に伊豆半島の川奈で橋本・エリツィン会談が行われます。いわゆる「川奈提案」(択捉島とウルップ島に国境線を引くが、当面は四島でのロ

シアの施政権を認める」との内容)にエリツイン大統領が一旦乗りかけて側近が慌てて引き止めた。この時、領土問題は一番解決に近づいたと言われていました。しかし、橋本内閣は夏の参院選敗退で退陣し、あとを受けた小渕恵三首相がモスクワを訪問した 98 年 11 月の首脳会談で、ロシア側は川奈提案を最終的に拒否しました。

この時、次官級で交渉する「共同経済活動委員会」が設置され、「四島における共同経済活動の発展に関する日露協力プログラム」が署名されています。したがって、「北方四島での共同経済活動」の提案は今回が初めてではありません。このプログラムには、「双方は、海洋生物資源の再生産および養殖並びに漁獲物の加工を含め、相互に関心を有する分野における協力を、将来の共同経済活動のあり得べき形態として見ている。」と書かれています。

さらに、「共同経済活動を軌道に乗せるため、諸島において、……海洋生物資源についての操業の分野における協力の若干の事項に関する協定に基づいて、海洋生物資源の再生産に関する分野における協力を実現することが合目的である。このような協力の形態としては、現段階においてはウニ及び貝類の栽培漁業があり得る。」とも書かれました。

ただ、この時はすでにエリツイン大統領の健康状態が相当悪化しており、その後、共同経済活動にかんする交渉は進展しませんでした。

頓挫した「同時並行協議」

エリツイン大統領が 1999 年 12 月末に退陣し、プーチン大統領が、2000 年 9 月に来日します。東京で森喜朗首相とプーチン大統領の首脳会談が行われました。さらに、2001 年 3 月に森首相がイルクーツクを訪問して、イルクーツク声明が出されました。実はこの時初めて両国の公式文書で 1956 年の日ソ共同宣言が取り上げられた。つまり、プーチン大統領になって初めて、両国間で日ソ共同宣言について言及されるようになったということです。それまでは、「歯舞群島および色丹島を日本国に引き渡す」と書いてある日ソ共同宣言をロシア側は公式に認めていませんでした。一方、日本側もとくに冷戦時代には共同宣言をソ連側に再確認させることに熱心ではありませんでした。

ということで、1956 年の共同宣言を基本にしてもう一度交渉しようというのが森・プーチン会談の「イルクーツク声明」です。日本側は、「同時並行協議」することで交渉を進展させようとしています。今ではほとんどなかったことのように扱われていますが、日本外務省は「歯舞・色丹の引き渡しの様態の議論と国後・択捉の帰属の問題を、同時かつ並行的に進めていくこととおおむね一致した」と平成 14 年度の『外交青書』に書いています。しかし、日本側はそれまで「四島一括返還」とずっと言ってきましたから、「二島だけで終わるのか」

という反発が国内から当然出てきます。「並行協議」を進める途中で、この問題に深くかかわっていた鈴木宗男・衆議院議員と外務省の佐藤優さんが逮捕されるという事件が起こって日本外交が混乱しました。結局、日本側が再度「四島一括返還」の立場にもどったために、交渉は全く進まなくなりました。

その後も 2003 年 1 月に小泉首相がモスクワを訪れてプーチン大統領と会談し、「日ロ行動計画」を発表しました。日ロ交渉を何とか動かそうとする努力がなされたが、事件の後遺症は大きく、その後 10 年間、交渉は停滞しました。

2012 年 12 月に第二次安倍政権が発足し、また 2012 年 5 月にプーチン大統領が再就任して、もう一度日ロ関係が動き出したというのが現在までの流れです。



「引き分け」による解決(プーチン大統領)

1912 年 5 月の大統領再就任に先立つ 3 月、プーチン大統領は新聞記者とのインタビューで、(領土問題の)「引き分けによる解決」を示唆しました。日本語で「引き分け」と言ったのですが、ご存じのとおり、プーチンさんは柔道の愛好家です。

話が変わりますが、2000 年にプーチン大統領が登場してから中ロ国境問題が解決しています。アムール川(黒竜江)にある二つの島をめぐる、中国とロシア(ソ連)は一時武力紛争にまで至っています(1969 年ダマンスキー島事件)。この二つの島はロシア側が実効支配していたのですが、中国側も領有権を主張してきました。最終的に島の面積を「50 対 50 の原則」で半々に割るということで、2004 年に国境問題が解決しました。おそらくそういうことも頭にあったのではないかと思います。日本側も中ロ国境交渉の経過を十分研究していたものと思われます。

安倍首相の経済協力 8 項目提案

2013 年 4 月に安倍首相が経済界を含む大型代表団を率いてモスクワを訪問し、日ロ関係は再起動します。14 年 2 月のソチ冬季オリンピックの開会式にも安倍首相は出席し、さらにもう一步を踏み出そうとしたわけですが、そこでウクライ

ナユーロ・マイダン革命が起こりました。3 月にロシアがウクライナのクリミアを編入しました。国連総会はロシアのクリミア編入を認めず非難決議を行い、アメリカ、EU、日本など西側諸国は対ロ制裁を拡大します。ロシア政府高官の入国拒否、対外資産の凍結、プーチン政権と関係が深い企業の資産凍結、ロシア国防産業への先端技術の輸出禁止などの制裁に日本も加わったことで、日ロ交渉はまたしばらく停滞しました。

しかし、その中でも水面下での交渉は続いていたのです。2016 年 5 月に安倍首相がソチでプーチン大統領と会談し、「新しいアプローチ」による解決を呼びかけました。安倍首相は具体的な説明をしなかったため、当初この「新しいアプローチ」が何を意味しているのかは曖昧でした。

具体的な提案は、「日本の対ロ経済協力 8 項目」です。

1. 健康寿命の伸長。
2. 快適・清潔な都市づくり。
3. 中小企業交流・協力の拡大
4. エネルギー
5. 産業の多様化・生産性向上
6. 極東の産業振興・輸出基地化
7. 先端技術協力
8. 人的交流の拡大

これらの項目に対して、ロシア側からさまざまな要望や提案が出され、日本側もそれを受けて再提案をする。いろいろな分野で日ロの協力プランを出していこうというのがその内容です。

同時にこれも今までなかったことですが、世耕・経済産業大臣をロシア経済分野協力担当大臣に任命しました(兼任)。世耕大臣が中心になって 8 項目提案の具体化を進める体制が組みました。さらに、9 月のウラジオストクでの第 2 回東方経済フォーラムに安倍首相が出席する。11 月のリマ(ペルー)での APEC(アジア太平洋経済協力会議)でも安倍・プーチン会談を組む。こうして何回もの準備を重ねた上で、2016 年 12 月のプーチン大統領来日と日ロ首脳会談が行われたわけです。

共同経済活動の具体的な内容

そこで、四島での共同経済活動とは具体的に何をやるのかということです。おそらくさまざまな議論がされていると思いますが、1998 年の北方四島での共同経済活動プログラムが下敷きになっているものと思われます。2 月 26 日の日経新聞では、

サケなどの水産加工場の共同運営

養殖分野ではアワビなどの共同生産

日本医療機関の提供する遠隔医療(現地医療機関と北海道の大学や医療機関の協力)

クルーズ船による観光振興

貝殻島の灯台改修検討

などが考えられていると報じられています。

島の主権をどうするかという議論にまで踏み込むとなかなか進まないで、その問題をいかにクリアするかが問われます。

「新しいアプローチ」とは何か？

そこで、安倍首相が言う「新しいアプローチ」とはいったい何なのか。この間の安倍首相の発言を突き詰めていくと、「過去ばかりにとられるのではなく、北方四島の未来図を描き、その中で解決策を見出す」という言葉に集約されます。未来志向ということです。未来志向の下で、日ロの協力の範囲を拡大していく中で、領土問題についても双方が納得できる解決策が見いだされるだろうということでしょう。その具体的な協力の内容として 8 項目提案がなされているわけです。

まだまだ少ない日ロ貿易の現状

では、経済関係についていえば、日本とロシアの貿易の現状はどうなっているのでしょうか。2015 年で見ると、日本がロシアからの輸入する品目のうちで、全輸入額の 38.2%が原油、24.9%が天然ガスであります。ロシアからの全輸入額の 6 割以上が石油と天然ガス、つまり輸入品の大半が資源・原料であり、この貿易構造は昔から変わっていません。かつて木材や石炭であったものが、原油や天然ガスになっているのです。他方、日本のロシアへの輸出は、自動車輸出総額の 47.9%と約半分、一般機械 15.7%、自動車部品 8.4%です。

2005 年から 2015 年のロシアの貿易動向を見ると、輸入は 2008 年リーマンショックのあと大幅に減り、その後再び増加していますが、この間の原油価格の下落と経済制裁の影響で 2014 年以降下がっています。日本の輸出も同じ傾向で、輸入減に連動して輸出減となっている。表は 15 年までしかありませんが 16 年もさらに下がっています。これをどう増やしていくのかというのが課題で、新たに経済協力で増やしていこうということが現在の状況だろうと思います。

日本の貿易総額の中で対ロ貿易が占める比率はごくわずかです。日本の貿易総額では、長年対米貿易が第 1 位でしたが、2006 年に対中貿易が 1 位に入れ替わりました。2015 年現在で、1 位中国(21.2%)、2 位 ASEAN(15.2%)、3 位アメリカ(15.1%)、4 位 EU(10.8%)です。これに比べると対ロ貿易はほとんど無きに等しい状態なので、これをともかくも増やしていくことが課題となっているわけです。

人的交流の拡大も課題

もう一つ大事なことは人の往来です。アジア各国・地域への行先別の日本人訪問者数の推移(2006 年～2015 年)を

見ると、1 位は中国です(一時より減ったとはいえ 2015 年で 250 万人)。2 位韓国(同 180 万人)、3 位台湾(145 万人)という順位です。ロシアへは年間 10 万人程度で、まだまだ少ない。アジア各国・地域へのロシア人訪問者数は、アジアで第 1 位は中国(2015 年で約 158 万人)、2 位タイ(88 万人)、次いでベトナム(34 万人)、韓国(19 万人)、香港(15 万人)という順位になっています。これはビザの問題もあるし、旅行費用の問題もありますが、訪日ロシア人は年間 5 万人程度です。距離から言えば日本と極東ロシアは非常に近いので、人的交流の大幅な拡大も今後の大きな課題です。

極東・ウラジオストクを窓口に関係拡大を

経済協力の大きなポイントの一つは、やはり東シベリアの石油・天然ガスを中心とするエネルギー資源です。この間、東シベリアと極東の石油・天然ガスのパイプラインはどんどん伸びています。その行先は、一つは中国の大慶、もう一つは、太平洋岸のウラジオストクとナホトカです。ウラジオストクとその周辺が石油・ガスパイプラインの外国への出口になっていて、ここから日本、韓国、さらに中国、アメリカにエネルギー資源を輸出することを狙っています。そのため、ロシア政府はウラジオストクを中心に投資を集中し、極東地域の経済発展に取り組んでいます。2 年前からウラジオストクで東方経済フォーラムがプーチン大統領の出席のもと、毎年開かれているのも、そのようなロシア側の意欲の表われといえることができます。

ウラジオストクの町は近代化されました。2012 年 9 月の APEC (アジア太平洋経済協力) 首脳会議に向けて大きな 2 つの橋が建設されました。金角湾と市街とルースキー島にかかる 2 つの斜張橋です。この時、ウラジオストク国際空港の大規模な改修も行われました。今年の 4 月末から関西空港とウラジオストク空港間の空路が再開され週二便飛ぶことになっています。関空から 2 時間少々 of 飛行でウラジオに着きます。ロシア極東は日本のすぐ隣にあるということがよくわかります。

ロシアの中央政府がここに資金を投入して、対日本、対アジアの経済交流の窓口にしようとしていることは理にかなったことだと思います。

日ロ関係のこれから

最後に、少し古い資料ですが、日本外務省のホームページに載っている表を紹介しておきます。国土面積や人口、GDP (国内総生産) などの数値をロシアおよびアメリカ、中国などと比較した数値です。各項目で、日本を 1 とした場合の各国との比較表です。

国土面積は、日本 1 に対して、ロシア 45 倍、アメリカ 25 倍、中国 25 倍です。人口は、日本 1 に対して、ロシア 1.1 倍、アメリカ 2.5 倍、中国 10.6 倍。GDP、石油生産量、天然

ガス生産量、総兵力、国防費、国家予算…と主要国を比較している中で、見ていただきたいのは貿易額です。これは 2011 年の数字で少し古いのですが、日ロの貿易額を 1 とすると、日米貿易は 6 倍です。日中は 11 倍、日 EU は 6 倍、日韓が 3 倍です。また中露は 2.7 倍、韓露でさえ 0.8 倍なのです。日ロの貿易が他の国との貿易に比べて遅れをとっていることがわかります。

主要国概要値一覧

	日本	ロシア	米国	中国	EU	インド	韓国
国土面積	1	45	25	25	11	9	0.3
人口	1	1.1	2.5	10.6	4.0	9.8	0.4
GDP	1	0.3	2.6	1.2	3.0	0.3	0.2
GNI/C	1	0.3	1.4	0.12	0.9	0.04	0.6
石油生産量	—	1	0.7	0.4	0.2	0.1	—
天然ガス生産量	—	1	1.0	0.2	0.3	0.1	—
総兵力	1	4	7	10	—	6	3
国防費	1	1.3	14	2.1	—	0.8	0.6
国家予算	1	0.2	1.5	0.7	—	0.1	0.1
貿易額	—	1	6	11	6	3	2.7
人的往来	—	1	32	40	—	1.8	42

※1: GDP 国内総生産
 ※2: GNI/C 国民総所得換算人口当たり国内総生産
 ※3: ロシアを 1 として日本と主要国のデータは相対数。

人物往来も、日露を 1 とすると、日米は 32 倍、日中 40 倍、日印 1.8 倍、日韓 42 倍です。中露は 23 倍、韓露が 1.8 倍ですから、人の往来も主要国の中で日露が一番少ないというのが偽らざる現状です。

潜在的な可能性はあるとしても、現在の日ロの交流レベルはまだ非常に低い。ソ連時代はソ連の対西側貿易の相手国第 1 位は日本でした。そのことを考えると、現在の状態はお金と物と人の動きがまったく低いレベルに留まっています。これに対してやはり「新しいアプローチ」で経済交流を抜本的に拡大しないと、平和条約交渉の環境は整っていかないと思います。

今後の日露関係はどうなっていくのか。経済協力で何とか前に動かしていこうというのが今回の日露首脳会談で示された基本的な方向性でしょう。

あまり知られていませんが、ロシアに進出している日本の企業のなかで、東京に次いで多いのが大阪の企業です。そういう意味で、現に存在しているそれぞれの関係をベースとして、今後さらに新しい分野の企業間の関係をも広げていくことが期待されます。大阪の企業にも、またそういった企業と関係のある府議会議員の皆さまにも、是非、日ロ交流の拡大に力をお貸しいただければ幸いです。

(2017 年 3 月 3 日、シティプラザ大阪にて)



講師：酒井和人氏(中日新聞記者・元モスクワ支局長)

日ロ友好愛知の会 講演会

私の見たロシア、これからの日ロ関係

「二島先行返還」にカジを切った安倍政権

5 月 13 日、名古屋国際センターにて、日ロ友好愛知の会の総会とあわせて中日新聞記者・酒井和人氏(元モスクワ支局長)の講演会が行われました。昨年 12 月のプーチン大統領訪日と首脳会談を受けて、領土交渉はどう進むのか。酒井氏は「今回のプーチン訪日で領土はゼロ回答」、「安倍官邸は『二島先行返還』で条件整備を進めている」との見立て。モスクワ特派員時代に取材した日本外交の裏側など興味深い話を聞くことができました。

愛知の会と酒井和人記者の了解を得て、講演録を掲載させていただきます。(編集部)

ペテルブルグ大学に留学

中日新聞社には留学制度があり、支局のある国で 1 年間語学留学をさせてくれます。その制度を使い、2005 年夏から 1 年間、ロシアのサンクト・ペテルブルグ大学に留学しました。その後、08 年から 3 年間、モスクワ支局で特派員として勤務しましたが、留学はなぜモスクワでなくペテルブルグにしたのか。プーチン大統領はサンクトペテルブルグ大学の出身ですし、メドベージェフ首相もそうです。ロシアは官僚社会で、モスクワ大学出身者が大きな勢力をもっているのは事実ですが、当時はプーチン氏が力をつけるに従ってロシア政界でサンクト派と呼ばれる人たちが勢力を伸ばしてきたところでした。

「北方領土は日本のもの、でも返さなくてもよい」

留学中は、大学の語学研修センターでひたすら語学の勉強をしていたわけですが、たまに東洋学部の日本語学科をのぞく機会があり、先生に頼まれて少しジャーナリズム論の講義をしたことがあります。ロシア人の学生 30 人ほどにアンケートを取ると、「北方領土は、日本とロシアどちらの国のものと思うか」という質問で、「日本のもの」という答えが「ロシアのもの」という回答より少し多かった。15:14 くらいとわずかな差でしたが、驚きました。彼らは、今後の日露外交を担うかもしれないエリートたちです。では、「北方領土を日本に返すべきか」という質問には、これは全員が見事に「返すべきではない」と答えました。つまり、歴史的には日本の領土

であるかもしれないが、返さなくてもいいと考えているわけです。

何故なのか。ロシアでは、北方領土は第二次世界大戦で獲得した戦果と考えられており、メディアなどでもそういう取り上げ方をされています。第二次世界大戦はロシアでは大祖国戦争と呼ばれており、対ドイツ戦で 2000 万人以上の膨大な犠牲を払った。とくにレニングラード(現ペテルブルグ)は 900 日にわたる包囲を受け、餓死を含む多くの死者を出した。そういう苦しい戦争を戦って、その延長線上で得たものの一つとして北方領土もあると考えられています。それを何故返さなければならないのかという素朴な感情があります。このような考え方はロシアの一般民衆にもあるし、若い世代やエリート層の中にもあるわけです。

ロシア人の日本イメージは良好。常に「好きな国」の上位

ロシア人の一般的な対日観はどうか。ロシア人の日本イメージは良好で、日本人は尊敬されているというか、重きを置いて見られていると思います。ロシアの世論調査で、好きな国・嫌いな国を尋ねると、日本は常に好きな国の上位に入っています。

一方で、ロシアは非常にプライドの高い国です。地球上の陸地の 6 分の 1 を占める巨大な国であり、資源大国です。冷戦時代には超大国としてアメリカとともに世界に君臨した。そのようなことも含めて、大国意識をロシア人は持っている。その大国がかつて戦争に負けたのが日露戦争です。「われわれはナポレオンにも勝ったし、ヒトラー・ドイツにも勝利したけれども、東郷平八郎に負けた。」とロシア人の学生に言われたことがあります。ロシア人は決して軽くは日本を見ていないと思います。

一般的に言って、ロシア人は日本とは仲良くしたい、政治・経済・文化など様々な交流と協力を拡大したいと思っています。これはロシアの政官財一致した考えだと思います。そこで両国間に引っかかっているトゲが北方領土問題です。このトゲを抜いて平和条約を結びたいとロシア側も考えている。しかし、日ロ交渉が進むかという、なかなかうまく進んでこなかった。日ロ交渉は螺旋状に同じところをグルグル廻っている感じでなかなか進展していないというのがこれまでのところでは。

日本外交の裏側～メドベージェフの国後島訪問

日ロ外交の裏側を少し話しておく、2000 年代初めの 10 年間はロシアに対する日本の外交力がかなり低下した時期でした。

2010 年 11 月にメドベージェフ大統領(当時)がロシアの元首としては初めて北方領土(国後島)を訪問した。これに日本側は大反発して日ロ関係は冷却化しました。実はこの時、メドベージェフの国後訪問情報を私はかなり早い段階、8 月ごろにはつかんでいました。ウラジオストクの通信員(ロシア人記者)から『極東艦隊のパイロットが要人來訪で待機命令を受けている』という情報があり、日本大使館に確認してみたのですが、その頃はまだ大使館スタッフは「ただのウワサだろう」という程度の認識でした。そのうち、ウラジオストクの地元紙が大統領のクリール(北方領土)訪問を記事にしたのですが、その時点でも日本大使館は「噂は聞いているが詳細は把握してない。ロシア側のブラフ(脅し)で、実際には行かないだろう」という見解が支配的でした。そのうち、ロシアの大統領府のいわゆる記者クラブで『取材同行ツアー』の募集が始まり、「もうこれは事実だろう」ということになった。当時は民主党政権でしたが、当然日本政府はロシアに強く抗議します。しかし、メドベージェフは国後訪問を強行し日本政府は面目を失いました。現地情報をちゃんと掴んでいなかった、掴んでも正確な分析ができなかったということで、当時の河野雅治大使は更迭されました。



「失われた 10 年」。日本の対ロ外交力低下の 2000 年代

この外交的失点は日本の対ロ外交力の低下を如実に物語っています。端的に言うと、2002 年の『ムネオ疑惑』に端を発した外務省内の混乱で、鈴木宗男氏(衆議院議員)や佐藤優氏(外務省主任分析官)ら当時、北方領土交渉の最先端を担っていた人たちが「国策」と思えるような捜査によって失脚させられたことが、大きな原因でした。

現在は作家として活躍している佐藤優さんはノンキャリアでしたが非常に優秀な人で、情報収集力に長けていました。かつて社会主義だった国での情報収集は非常に難しい。

マスコミで言えば、ロシアの役人に直にアクセスするのはほとんどできない。たとえば外務省で取材する場合、日本だったら記者証だけで入っていけるのに、ロシアでは事前に申請書を出して許可をとらないと入れない。許可をとるのに 1 カ月もかかることがある。そこで外務省 OB や省内にツテのある学者などを通じて間接的に取材したりする。外交官も表面的な交渉はできるが、いわゆる腹を割ってというか、人間同士のつきあいまではなかなかできない。佐藤さんには批判も多いのですが、こうしたつきあいをできたのは佐藤優さんだけだったとロシア人の知り合いから聞いたことがあります。

鈴木さんを庇うつもりはまったくありませんが、現実問題として、鈴木宗男さんや佐藤優さんが日ロ外交の現場からいなくなってから、北方領土交渉は停滞感が強まることになりました。鈴木さんたちが交渉の念頭に置いていたのは「2 島先行返還」(歯舞・色丹の 2 島の返還と、国後・択捉の交渉継続)ですが、これが国内の保守派から「2 島返還だけで手を打とうとしている」と攻撃されていた。2 島先行返還なのか、4 島一括なのか、面積を等分で分ける「3.5 島」というものもありますが、この混乱の後、日本政府の軸足は定まらず、領土交渉は迷走してしまいます。日本外交において 2000 年代は「失われた 10 年」と呼ばれることもあります。

プーチン大統領のもとで再び動き出した日ロ交渉

メドベージェフの国後島訪問で日露関係が険悪になっていた時、首相だったプーチンは沿海州の会議に出席していたのですが、北方領土には一言も触れませんでした。何も言わないことも一つのメッセージです。

プーチン大統領のマインドを考えると、彼は柔道の有段者で、柔道を通じて「日本の精神」をよく理解している政治家です。娘のエカテリーナさんがペテルブルグ大学東洋学部で日本語を学んだのも、そのことと無縁ではないと思います。プーチン大統領は、北方領土問題を解決しようという意思を持っている。少なくとも 1956 年の日ソ共同宣言にもとづいて、歯舞、色丹の 2 島は日本に返してもいいと考えているのは間違いない。

ロシアは中国とも領土問題をかかえていましたが、アムール川(黒龍江)にある大ウスリー島を半々に分割する解決をしています。北方領土も「3.5 島(面積で二等分)」までは考えの範疇でしょう。クリミア半島の併合では非常に強権的な面を見せましたが、プーチン大統領は北方領土問題に関しては柔軟な態度をとっています。実はこの 10 年～15 年間で見ると、彼が大統領の時だけ日ロ交渉の機運が進展しています。2012 年に 2 期目の大統領に就任してプーチン時代は最長 2024 年まで続く。この任期中に日本との領土問題を解決しようという意思を彼は必ず持っていると思います。

「二島先行返還」で安倍官邸も GO サイン

一方、安倍首相も最終的な方向性としては、かつて鈴木宗男氏らが推進した「2 島先行返還と残る 2 島の交渉継続」でこの問題の解決をはかろうとしているように思われます。安倍さんが個人的に北方領土問題に深い関心をもっているかどうかは別として、「北方領土問題を解決した首相」として名を残したいと考えていることは間違いないでしょう。

昨年 12 月のプーチン大統領訪日と日ロ首脳会談の結果は、こと領土問題について言えば「ゼロ回答」でした。領土問題で具体的な進展はなかった。首脳会談ではたくさんの経済協力協定が結ばれましたが、経済協力についてはこれまで何度も言われているし、過去に締結されたプロジェクトも多くが途中で頓挫しています。今後の日露関係がどう進むかはまだ見通せませんが、安倍さんとプーチンさんの体制が今後も続いていけば、領土交渉が進展するチャンスはあります。

4 月 27 日からの安倍首相訪ロでは何故か鈴木宗男氏が特使で「先乗り」しています。鈴木宗男氏の復権を印象づけるもので、裏読みすれば「2 島先行返還」論の復活を意味するものでもあり、この路線で安倍首相は GO サインを出しているのだと見えます。ロシア側もこの線であれば乗って来ることができます。

これまで「四島一括返還」で固まっていた日本の保守派の主張も以前よりは強くない。もともと『四島返還論』は日本の意向というよりはアメリカの意向でした。「ダレスの恫喝」と言われていますが、日ソ国交回復交渉で歯舞、色丹の 2 島返還で手を打とうとした日本政府に「2 島返還で満足するなら沖縄は返さないぞ」とアメリカのダレス国務長官が恫喝した話は有名です。当時は米ソ冷戦下で、アメリカは日本の対ソ接近を極力排除したかったのです。今は当時とは大きく状況が違い、米ロ関係も大きく変わっている。先行きは非常に危ういものがありますが、トランプ大統領は基本的に、ロシアには友好的です。4 島一括でなくとも、まず 2 島でも返還が実現すれば支持率は上がるというのが安倍官邸の判断ではないかと思えます。少なくとも「二島先行返還」なら十分に可能性はあるし、それをもって平和条約が実際に結ばれれば、日ロ関係はこれまでと全く違う大きな発展を遂げると思えます。

経済関係の方に言わせると、ロシア経済は、不確定要素があるとはいえカントリーリスクはあまりない。エネルギー価格の動向に左右される弱点はあるが、産業基盤はこれから育ってくるところで「伸びしろ」があるし、人口も 1 億 3000 万人とそれなりの魅力ある市場でもある。隣国であり、ヨーロッパでもあり、観光資源も豊富で魅力がある。今後政治的な問題が解決されれば、日ロが一気に緊密化して、一種の「ロシアブーム」が来るのではないかと個人的には期待しています。(2017 年 5 月 13 日、名古屋国際センターにて)

【留学記】 ミンスクでの留学生活

静かな環境で勉強したい人に「一押し」

藤田 勝利(上智大学ロシア語学科・4年生)

自分は 2016 年の 4 月から 10 カ月間、ベラルーシ共和国の首都・ミンスクでロシア語留学をしました。

ミンスクを選んだ理由～治安の良さと物価の安さ

ロシア語を学ぶために、なぜ本場のモスクワやサンクトペテルブルグではなくミンスクを選んだかという、ミンスクはとにかく治安が良いからです。モスクワやペテルブルグ、キエフに留学した友人たちは、皆必ず何かを盗まれたという思い出話をしてくれるのですが、自分の場合そのようなハプニングは一切ありませんでした(だからと言って外国は外国です。これからミンスクに留学する人は油断しないようにしてください)。2 つ目は物価の安さです。ジャガイモ 1 キロ 25 円、他の食材も日本の 3 分の 1 程度の値段で買えてしまいます。レストランやカフェも日本より安く、オリジナリティのある店が多い印象を受けました。物価が安くて日本では味わえないものが沢山ある。治安が良くて安全である。こういった環境がミンスク留学のいいところだと思ったわけです。

小さいけれど味わいのある街

この 2 つの理由を並べると、学科の先輩から「それだけの理由で行くと、ミンスクは何にもないからつまらなくて痛い目見るよ」と脅されました。けれども、実際に 10 カ月間留学生活を送ってみて感じたのは、ミンスクにはいろいろ見るべきものがたくさんあるということです。

確かにミンスクは小さな町で、1 日あれば主な観光地を回ってしまえることができます。東京に比べると娯楽施設も少ないです。しかし、街にはゴミ一つ転がってない。昼と夜で違う景色をのぞかせるきれいな通りや、中心部を占める緑の多い心地よい公園。店ごとに個性の異なる様々なカフェやレストランと、接しやすくてつい話し込んでしまう店員さんたち。これらは日本では味わえないミンスクのとても貴重な美点です。自分は 2 人の友人と一緒に留学したのですが、理由はそれぞれ異なるけれど、3 人ともまたミンスクに行きたいと強く願っています。

自分は予定がないときは「探検」と称して街中にある未発見の店やイベントを探してよく散歩したのですが、その度に新しい発見をしました。つまりミンスクは、観光ブックには載っていない、そして他の町にはない、ミンスクだけの場所が探せば探すほど見つかる町なのです。



(写真) 街の中心部・ネミガの景色。ミンスクは天気が変わりやすくにわか雨が多い。折りたたみ傘は必須。



(写真) ミンスクにはこのような若者向けのおしゃれなカフェがいたるところに点在している。



(写真) 中心部の駅・Октябрьская (アクチャープリスカヤ) 付近の新年イルミネーション。



(写真) Октябрьская (アクチャープリスカヤ) 駅付近のデパート。



会話中心のロシア語授業

日本人がミンスクにロシア語留学をする場合、行先はベラルーシ国立大学かミンスク言語大学になります。自分はミンスク言語大学に留学しました。ミンスク言語大学では午前のクラスと午後のクラスがあり、午前のクラスは09:30-12:20、午後のクラスは13:00-15:50(それぞれ途中休憩あり)となっています。

授業内容は、日本の大学では先生の文法講義を聞くのが中心だったのですが、ミンスク言語大学では文法ももちろん扱いますが、大部分は先生と外国人学生とのいろいろなテーマでの会話の授業でした。取り上げるテーマは、時事問題、料理、趣味、ジェンダー、歴史など、古今東西様々です。最初は言いたいことがうまく言えなくて大変でしたが、しっかり勉強して日々準備していくとロシア語で自分の言いたいことが言えるようになっていくのが実感できました。入るクラスのレベルは最初に受ける筆記テストと面接で決まりますが、自分に合わないなと思ったらいつでも変えられます。

イベント参加で広がる学習機会

留学生活でロシア語力を伸ばすためには授業だけでは不十分です。ミンスクでは図書館やカフェで定期的にイベントが開かれています。そういったイベントに参加して、ベラルーシ人と交流することが勉強の機会を広げてくれます。自分の場合は、プーシキン図書館(最寄駅:Площадь Якуба Коласа)で毎週日曜日に外国人向けロシア語レッスンが開かれていたので、それに参加していました。そこではベラルーシ人の先生がボランティアで教えており、生徒たちはいろいろな国から来ています。たまたま先生が同じ寮に住んでいたため、一緒に映画を見たり、部屋でパーティーをしたり、新年を他の学生たちとともに祝ったりと、楽しい時間を過ごすことができました。また、自分は大学の近くにあるお茶屋さんにも足繁く通っていたのですが、そこでも音楽祭だったり英語のクラスだったりお茶会だったり、ベラルーシ人と交流できるチャンスが沢山ありました。

美味しかった寮のスタローバヤ

寮の宿泊費は 1 カ月 30~40 ドルほどで、とても安いです。寮費は、最初に大学に行った日に大学のカウンターで支払います。部屋はブロックごとに分かれており、一つのブロックの中に 3 人部屋・2 人部屋・トイレ・バスルーム・キッチンがあるという間取りでした。自分は日本人が 2 人住んでいた 3 人部屋に入れられました。出身地域ごとに入れられる部屋が決められているのかもしれませんが。もう一方の部屋にはトルコ人が 2 人住んでいてよく一緒に食事をしたり、酒を飲んだりしました。

食事は基本的には自炊です。ベラルーシの物価が安いのは確かですが、外食はやはりそれなりに値段がかかります。一般的なカフェで食事をすると 7~10 ドルかかるので、つきあい程度にしていました。寮のスタローバヤ(食堂)は、おなか一杯食べても 2~3 ドル程度ととても安かったので、ときどき利用しました。これはお勧めです。とくにベラルーシの民族料理・ドラニキやいろいろなスープを安く美味しく食べることができます。

通信環境も問題なし

寮の掃除は、原則として当番制でやることになっていますが、守られていない所も多かったです。しかし、しっかり掃除をしていないと、寮の見回り人にかなり強い口調で怒られます。寮には食堂のほか、洗濯室・ジム・自習室などが完備されています。洗濯室は有料で、寮ではなく大学のカウンターで代金を払わなければならないので注意が必要です。

通信環境については、自分が住んでいた寮は wi-fi が飛んでいなかったため、携帯ショップで wi-fi ルーターと sim カードを購入して環境を整えました。購入の際にはパスポートが必要です(店によっては一時在留証がパスポートに貼ってないと購入できない店もあるので要注意)。ちなみに値段はルーターが約 50 ドル、通信料は 1 ヶ月 48GB が約 13 ドルでした。

* * *

ミンスクはベラルーシの首都とはいえ、良い意味で小さくまとまっている町で、静かでとても住みやすいです。地下鉄も走っていますが路線は 2 本しかありません。町の中心部をスヴィスラチ川が流れており、最寄駅のネミガ駅付近からきれいな景色を見ながら川沿いを散歩することができます。オペラやバレエなども 1~5 ドルほどで本格的なものが見られます。映画の値段も同じくらいです。カフェやレストランはおしゃれで個性的なものが多く、さらにどのカフェでも wi-fi が利用可能です。

このようにミンスクはとても住みやすく、安全で、自然を感じられる素敵な街です。充実した留学生生活を過ごしたい人にはうってつけの場所だと思います。

マニア垂涎の軍事博物館たち

ロシア軍事博物館 見て歩く記

武藤 竜也(神奈川県在住)

2017 年 4 月にモスクワとペテルブルグを旅行した武藤竜也さんから面白いレポートをいただきました。武藤さんは軍事マニアで、ペテルブルグの砲兵博物館、モスクワの中央軍事博物館、強制収容所博物館、軍事祖国博物館、クビンカ戦車博物館とミリタリー・テーマパーク「パトリオット」などを見て回りました。今年のロシアは天候不順で 4 月中旬なのに雪が降ったり、車のドアが凍りついたり大変だったようですが、それをもとめせずに軍事博物館をハシゴして回った武藤さんのオタクぶりが伝わってくるレポートです。一部を抜粋して掲載させていただきます(編集部)。

砲兵博物館 (ペテルブルグ)

ペテルブルグのホテルで通訳さんと合流した時からエルミターージュを見終わるまでは快晴でした。砲兵博物館に向かう道中から雲行きが怪しくなりましたが、入口を見た瞬間、そこには「280mm 臼砲」(Br-5)が置いてあったので、私は興奮して天気など気にもとめませんでした。



砲兵博物館は、帝政ロシアからソ連、現在のロシア連邦にいたる火砲がまとめて置いてあることで有名です。中に入ると螺旋階段があり、これを上がっていくと奥にいくつかの展示室があります。一番手前は AK-47 で知られるカラシニコフ銃の特設展示をやっていました。一番奥の広い部屋にはソ連の火砲史の説明のためソ連時代の銃や砲が並んでいました。驚いたのは、先の大戦のドイツの対戦車砲(88mm Pak43/41)なども置いてあったことです。……下の階の一番奥の部屋にはミサイルが大量に展示されていました。

通訳さんの話では、この博物館に観光で来る人は年に 2 回ぐらいしかないと言われました。これが日本人観光客のことだけなのか、何とも言えませんが、アジアから来る人はやはり少ないようですね。

砲兵博物館は、大都市の中にあって行きやすい場所にあるのと、ソ連の大型火砲が大体揃っています。たとえば、通称「オカ砲」(オカはモスクワ周辺を流れるオカ川のこと)と呼ばれる「核砲弾用超大型自走迫撃砲」(2B1 420mm)。ソ連最大の火砲であり、ロシアでもここにしかありません。



ただ一方で、触ったりするのは、入口の外に置いてある 280mm 臼砲などだけで、内部の火砲は駄目なのですが、少しぐらいなら触っても大丈夫みたいです。ガイドさんが当たり前のように触っていたのでちょっとタッチしてみました。咎められることはありませんでした。ただ、銃系は駄目みたいです。

【データ】 ベテルブルグ砲兵博物館 Военно-исторический музей артиллерии, инженерных войск и войск связи МО РФ 正式名称は「砲兵と工兵部隊、通信部隊の軍事歴史博物館」。市内中心部、ペトロボフスク要塞の北側にある。小型のピストルから戦略ミサイルまで、火力武器全般、約 24 万点が展示されている。軍事通信、軍旗や軍服の展示も充実。開館時間 11:00～18:00(最終入場 17:00) / 休館日: 月・火曜と第 4 木曜日 / 入場料(外国人料金); 大人 400 ルーブル / 写真・ビデオ可; 150 ルーブル

中央軍事博物館(モスクワ)

ここはロシアの全般的な軍事史が専門です。通訳さんが博物館のガイドさんを連れてきてくれて、説明を聞きました。5 月 9 日が戦勝記念日ですが、現在のロシアでもこの大祖国戦争の勝利は非常に輝かしいものなのだと思わせる展示が多くありました。時間の関係で見れない展示が多かったのは残念でした(ここにはクビンカにもない「KV-2」という戦車があるのですが…、見れませんでした)。

ちょっと驚いたのは、シリア内戦でこの前トルコにロシア軍の Su-24 が撃墜される事件がありましたが、その機体には二人のパイロットが乗っていて一人は戦死し一人が生き残って救出されました。その戦死したパイロットの展示があって、「彼は祖国のために散った英雄だ」とガイドさんが言っていた点でした。

T-18 というソ連初の純国産戦車であり、T-シリーズの元祖の戦車が置いてありましたが、なんと！オリジナル品なんだそうです。こことクビンカに 2 両のみあります。(写真)



中庭には、火砲や戦車、戦闘機まで展示されているので、陸海空すべてを見ることができます。ただ、ここでは展示物に触ることはできませんでした。

【データ】モスクワ 中央軍事博物館 Центральный музей вооружённых сил Российской Федерации 1919 年に赤軍博物館として開設され、ソビエト軍中央博物館から 1993 年に中央軍事博物館と改称された。24 の展示室を有し、収蔵品は 80 万点を超える。第二次大戦の東部戦線(独ソ戦)が展示の約 7 割を占める。建物の外には、戦車、戦闘機、ミサイル、野砲などが展示されている。最寄りの地下鉄駅は「ドストエフスカヤ」。開館時間; 10:00～17:00(土曜日は～19:00) / 休館日: 月・火曜日 / 入場料; 大人 200 ルーブル(特別展示会がある場合は、追加料金; 200 ルーブル)。

強制収容所(ラーゲリ)博物館

「日本人は初めて来た」と言われました。ここは、ソ連時代の強制収容所の歴史とともに、スターリンによる大粛清の犠牲者の身元を調べたりする活動もしているようです。ちなみに、来館者はロシア人を基本としても、外国からはドイツ、フランス、イギリス、アメリカ人が全体的によく来るそうです。

入口で配っている音声案内機を聞きながら展示を見えます。写真撮影は OK ということでしたが、雰囲気的に、ガイドさんの話に耳を傾けるべきと判断して、写真は撮りませんでした。

まず、「あなたは強制収容所や秘密警察を知っていますか？」という問いに始まって、帝政時代に最初の収容所が作られ、レーニン時代になると活発に使用されるようになり、スターリン時代にそれは猛烈なものになったことなどが説明され、展示物の見学に移っていきます。最初の展示物は、収容所のドアやベッドなどです。……。部屋を一周すると壁に施設の設計図が貼られていました。説明役のおばあさん曰く。それまでソ連の収容所は施設の設計に互換性がなく、収容者たちがその地にある石や木材で自ら建てて入っていました。スターリンは、戦後 1947 年に「ソビエト人民すべて」を収容所に入れるために互換性があり簡単に作れる収容所の設計を命じました。しかし、すべての人民を収容所に入れるのは無理だったため中止されたということです。ちなみに、博物館の展示はすべてソ連人用のものであり、戦争捕虜たとえばシベリア抑留者などの展示はここにはありません。

螺旋階段を上がると、当時のプロパガンダポスターや、粛清の命令書などがあります。別の部屋には、収容所での生活用品。また、収容所で作っているモノに家族の名前と住所などを書いて、それを買った人に代わりに連絡をとってほしいと頼んだ悲痛な品が並んでいました。

最後にソ連全土の地図があり、収容所の場所が書いてあります。奥の部屋ではスターリンが死亡した当時の映像が両側に流れていました。片方は悲しみにくれる人々。もう片方は悪魔が死んで喜ぶ人々です。「スターリンは現在でも英雄か？ 冷酷非道な独裁者か？ ロシア国内でも意見が分かれています。」という説明があって案内が終わりました。

【データ】 強制収容所博物館 Музей истории ГУЛАГа
2001 年に開設された「記憶博物館」の一つ。1920 年代から 50 年代のソ連・矯正労働収容所制度の誕生・発展・衰退の歴史をたどり、その理不尽な政策で犠牲になった人々の資料や展示品を公開している。2015 年に規模を 4 倍に拡大した新館に移り、特別展示室、ビデオ資料室、研究センターなどが拡充された。開館時間; 11:00~19:00(木曜日は 12:00~21:00) / 休館日; 月曜、第 4 金曜日 / 入場料; 大人 300 ルーブル。



クビンカ戦車博物館 & パトリオットパーク

大本命だったクビンカですが、足回りに苦労しました。現時点では、電車移動は不可能です。将来は、クビンカ駅とクビンカ戦車博物館、さらにパトリオットパークを繋ぐ鉄道が通るらしいですが、現在は通っていませんでした。さらに、ホームページには駅と博物館を繋ぐシャトルバスがあると書いてあったのですが、まさか(私が行った時には)存在しませんでした。仕方なくタクシーで移動しました。



世界初の首付き戦車

さらに、驚くほど遠い遠い。すげー遠かったです。しかも戦車博物館に着いてから吹雪となってしまい、…参りました。

戦車博物館まで行くだけならクビンカ駅まで電車移動で、後タクシーを使ったらいいかもしれませんが、現在、目玉と言える戦車たちは半分くらいパークの方に行ってしまうっており、パークまで行かないわけにいきません。移動のことを考えれば、タクシーを呼ぶよりは絶対、送迎車を頼んでおく方がよいと思います。

戦車博物館に展示されている戦車で、T-72 と T-80 は「おさわり OK」で、内部に入ることも OK でした(私は、残念

ながら先にロシア人の小さい子供が 2 人入っていたので、乗るのを諦めました。しかし、T-シリーズの戦車に乗れるとは神秘的です)。

パトリオットパークでは、一番の心残りがあります。射撃ができなかったのです。吹雪じゃなければ、…くやしいです。帰国してからホームページを見たところ、射撃のページが更新されて豪華になっていました。…くやしいです。まあ、射撃はできませんでしたが、ソ連の戦車で一番好きな IS-4 が見れたので平気です(写真)。



筆者が愛するソ連 IS-4

パトリオットパークは、広大な敷地に戦車や火砲、戦闘機が置いてあって、触ることも乗ることもできるので、天国です。しかし…、今日は吹雪です。外の兵器を見るのを諦めて、建物の中の食堂に入りました。お客さん…誰もいませんでした。貸し切りです。パスタを食べました。

パーク内用のバスに乗り、「航空宇宙博物館」に向かいました(パーク内には、戦闘機、軍用ヘリのほか、ロケットや宇宙開発なども展示されている)。何故かここにドイツの戦車「ヤークトティーガー」が置いてあるのです。日本のチハ改などもありました。その中に物凄く珍しいモノがありました。「九八式臼砲」という日本陸軍の極秘兵器です。もともとは大型火砲の移動中に隙を作らないように大型火砲並みの威力を持つ小型奇襲兵器として作られました。生産数が少なく戦後ほとんど破壊されたためほとんど現存していないのです。もしかしたら、



九八式臼砲

一般人でも見れる九八式臼砲の実物はここだけかもしれません。(パークの規模と展示を見ると)ロシアが本当に戦車や戦闘機などの軍事兵器を観光資源にしようとしているのが分かります。

【データ】 クビンカ戦車博物館 Центральный музей

бронетанкового вооружения и техники
 莫斯科郊外のクビンカ基地内にあるロシアの戦車・装甲車博物館。12 ヘクタールの敷地に、世界 14 カ国から収集した 350 両以上の戦車・装甲車を展示。うち 60 両は世界にここだけにしか存在しないものであり、事実上世界最大の戦車博物館である。1972 年開館。開館時間; 10:00 ~ 18:00 (土日は~19:00 まで) / 休館日; 月曜日 / 入場料; 大人 400 ルーブル



【データ】 ミリタリーパーク・パトリオット Военно-атриотический парк культуры и отдыха Вооружённых Сил Российской Федерации «Патриот» 正式名称; 「ロシア連邦軍の文化と娯楽を目的とした愛国者公園」。モスクワから西へ車で 1 時間半。ロシア国防省の資金で建設された大規模なミリタリー・パーク(2016 年 6 月開設 / 2017 年 2 月完成予定だったがまだ未完成)。クビンカ戦車博物館と一体となって、戦闘車両や戦闘機、ミサイルなど旧ソ連からロシア軍のあらゆる兵器が展示される。展示施設の周囲には戦車戦が行える規模の演習場があり、ホテルやレストラン、会議施設やオフィスなども併設される予定で、完成すれば世界最大のミリタリー・パークになる。開館時間; 10:00 ~ 18:00 (土日は~19:00 まで) / 休館日; 月曜日 / 入場料; 大人 500 ルーブル

軍事祖国博物館



ここに来た日本人はこれまた初めてだと言われました。面白いことに中国人はときどき来ると言われ、さらにインド人も来ると言われました。ロシアの友好国なので観光に来る人は多そうですが、博物館の隣に立派な乗馬場があるので、馬に乗りに来て「ちょっとついでに戦車でも見ていくか」と言う人が多いのかな？

モスクワ市内から郊外に向かい、1 時間くらいで 10 時頃には着いていたのですが、中に入ると誰もいない。乗馬場の人に聞くと、博物館の人はまだ出勤していないということでした。何でも博物館の今日の開館時間は 11 時半頃らしいです。乗馬場の建物(正確には室内乗馬・調教場?)の中



にミニ豚やウサギ、インコなどの小さな動物園があり、さらにスポーツジムやカフェがあったので、博物館の人が来るまでそこで時間をつぶしました。

この博物館にも外にたくさんの火砲が置かれています。先の大戦で使われた火砲(対空機関砲 / 高射砲 / カノン砲 / 榴弾砲 / 対戦車砲 / 艦砲)、戦後現在でも使用されている火砲全般が置かれています。それらはすべて触っても OK なのですが、この凄いところは火砲がちゃんと動く点です。ハンドルを回すとちゃんと動くのです。これには興奮しました。ただ、中にはどうしても動かないものもあるようです。博物館のガイドさんが説明してくれると同時に、動くものは少し動かして見せてくれるので、楽しくていただけませんでした。奥の方には戦車や自走砲が置いてありますが、これも半分ぐらいは動くのだと思います。実際に動いているところは見ていませんが、YouTube などに走っている動画が投稿されたりするので、動くのは確実です。

建物の中には軍用のトラックや車が展示されています。わざわざ人除けのチェーンをしていることからして、これらはタッチ NG です(ガイドさんは当たり前のようにチェーンを跨いで入って説明してくれましたが)。

飛行機の時間が迫っていたので見学を途中で切り上げたのですが、出口の手前でサプライズがありました。ガイドさんが、銃を見せてくれると言ったのです。モシン・ナガン小銃、狙撃型モシン銃、短機関銃(PPsh41)、AK-47 カラシニコフ銃などを直接手に持たせてもらいました。これは、パークで射撃できなかった私には最高の褒美でした。

動いているトラックもありました。ガイドさんは、「ここでは実際に兵器を動かして駆動音などの感じてもらうこともしている」と言っていました。説明などを振り返ると、全体的には先の戦争を忘れないための施設でもあるようです。

【データ】 軍事祖国博物館 Музей отечественной военной истории 莫斯科郊外にある乗馬場・レストラン・博物館の複合施設の一部として開設。主な展示品は、戦車並びに装甲車(38 点)、砲火器(51 点)、自動車 & バイクなど(18 点)。規模は大きくないが、記事の通り、展示品を実際に動かすことができるのが特徴。開館時間; 12:00 ~ 16:00 / 開館日; 土日曜日のみ(他の日は事前予約が必要) / 入場料; 大人 400 ルーブル

日本語教師募集！

キルギスの 11 年生学校「ピリムカナ・カント校」

キルギスから日本語教師募集のお知らせです。
ビシケク郊外にある 11 年制学校で、この 9 月から全学年で日本語の学習を始めることになりました。

募集人数は 1 名ないし 2 名。やる気のある人であれば、年齢、性別、学歴を問いません。条件的に稼ぐことはできませんが、教師経験を積み、ロシア語もしくはキルギス語を学習するよい機会になります。

条件は以下の通りです。ご希望の方は、JIC までご連絡ください。

<条件>

受入校:ピリムカナ・カント校(私立の 11 年制学校)

所在地:ビシケク郊外(バスで約 30 分)のカント市

授業数:1 授業 40 分×1 日 3 授業×週 5 日

給 料:月額 150 ドル

宿 舎:ホームステイまたは学校の寮(1 人部屋/無料)

*アパートを希望する場合は自己負担。

特 典:希望によりロシア語またはキルギス語の授業が無料で提供されます(40 分授業×週 3~4 回)。

募集人数:1~2 名

期間:17 年 9 月ないし 10 月から 10 カ月間(延長あり)

*現地では、伊藤広宣さん(キルギス人文大学・学長顧問)が世話人としてサポートします。

問合せ先:JIC 東京事務所 TEL:03-3355-7294

e-mail: jictokyo@jic-web.co.jp

【近日出版！】

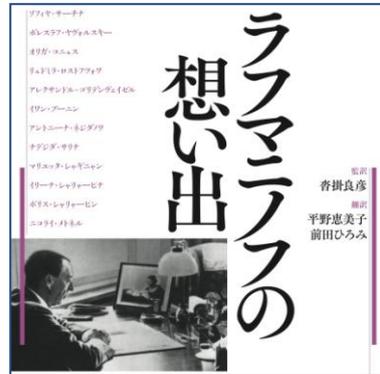
『ラフマニノフの思い出』

ラフマニノフは、チャイコフスキーと並んで最も人気のあるロシアの作曲家の 1 人です。そのラフマニノフとの交流や思い出を語る回想録が出版されます。

ここに収められた回想は、従妹のソフィヤ・サーチナや作家のマリエッタ・シャギニャンなどの筆によるもので、ラフマニノフ研究の最初期から資料としてしばしば用いられてきました。これまで論文などで部分的に紹介されることはありましたが、全文の翻訳は本邦初です。と言っても小難しい研究書では決してなく、家族やラフマニノフを親しく知る芸術家が、その人間的な横顔を語ります。偉大な音楽家の生涯に新たな光を当てる資料としても、ロシア革命前後の時代を生きた人々の生の証言としても、当時の芸術文化や音楽生活を知る上で、大変貴重な資料です。

ラフマニノフの音楽が好きな人は、本人がどのような人だったか知りたいと思うのではないのでしょうか。作品がどんなに

素晴らしくても、人間的には理解し難い芸術家もいますが、ラフマニノフは人気や名声に溺れることなく、勤勉で高潔、温かい人柄で、皆に尊敬され愛されました。1873 年生まれ、《交響曲第 1 番》の失敗と挫折、《ピアノ協奏曲第 2 番》の成功、亡命と欧米での演奏活動…、そういった人生の記録はどこでも簡単に読むことができますが、これらの出来事の陰



にある様々な逸話というのは、ラフマニノフを身近に知っていた人々でなければなかなか知り得るものではなく、またこれまでこのような本はほとんどありませんでした。

寡黙で控えめ、冗談好きで寛大、聴衆から絶大な支持を受けながらも時

に自分の才能を疑い、不安に苛まれる(人間)ラフマニノフの姿とその音楽を生んだ背景が、様々なエピソードから鮮やかに浮かび上がります。

サーチナやシャギニャン以外にも、ゴリデンヴェイゼル、ブーニン、ネジダノフ、メネル他、同時代の著名なロシアの芸術家たちによる十二編を収録しました。

監訳=杏掛良彦

翻訳=平野恵美子・前田ひろみ

翻訳協力=高橋健一郎

出版社:水声社(A5 判/予価:4500 円+税)

発売予定:2017 年 7 月上旬

全国どこの書店でもお求めになれます。お近くの書店や、ネットショップでご予約・ご注文ください(ただし Amazon には、2014 年 5 月以降、同社が再販契約を遵守し定価販売を励行するまで出荷を停止しており、同サイトではお求めになれません)。

◆◆編集後記◆◆

▼今号は、昨年 12 月の日露首脳会談をめぐる 2 つの講演録を収録しました。この 6 月 27 日には北方四島での共同経済活動の実現をめざす調査団が国後島に到着し、視察を開始しました。プーチン訪日で動き出した日ロ交渉の行方を見守りたいと思います。▼夏は観光シーズン。日本に一番近い隣国はロシアです。ロシアには、豊かな自然、音楽・バレエに代表される最高レベルの芸術文化があります。たまにはロシア旅行に出かけてみませんか。▼将来、国後島や択捉島に気軽に観光に出かけられる日が来るといいですね。(F)